

令和5年度

「『農』の機能発揮支援アドバイザー派遣事業」実施結果報告書

(この事業は、令和5年度都市農業機能発揮支援事業(農林水産省)を利用して実施しています。)



< 報告内容 >

1. 令和5年度実施概況	 2
2. 過去11年間の事業推移	 3
3. 派遣箇所の詳細	 4
(1) 分野別派遣箇所一覧	 4
(2) 派遣事例	 6

1. 令和5年度実施概況

○全国の農家、都市住民、企業、NPO 法人等の依頼に応じ、都市農業の多様な機能を活用した取組みを支援するため、テーマに応じた専門家をアドバイザーとして派遣した。
(コロナ感染予防等で必要な場合はオンラインでの派遣実施も可能とした。)

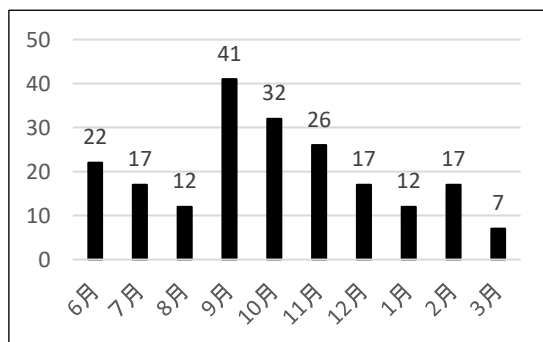
○令和5年度もコロナの影響で、多数が集まる講演会、学校の授業(食育)、高齢者施設や障害者施設での活動、農業祭や食に関わるイベントが抑制されたが、それにも拘らず、年間で218箇所から専門家派遣の相談があり、203箇所に専門家を派遣することができた。本事業の目的である都市農業機能への国民の理解が大幅に拡大、深化していることが示された。

- ・派遣手続き終了箇所数 218 箇所
- ・キャンセル箇所数 15 箇所(内、日程調整不可 4 箇所)
- ・派遣実施箇所数 203 箇所(内、オンライン 9 箇所)
- ・派遣アドバイザー数 215 名
- ・参加者数 6,143 名 (内、農業者 672 名)

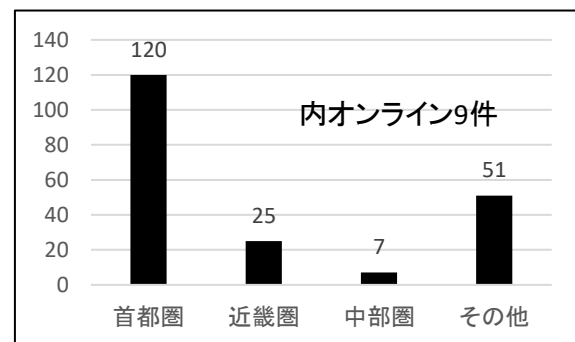
①期別派遣箇所数

	1 期	2 期	3 期	合計
	6 月～9 月	10 月～12 月	1 月～3 月	
計画	70	90	40	200
R01	74	83	38	195
R02	46	75	55	176
R03	61	64	58	183
R04	54	64	51	169
R05	92	75	36	203

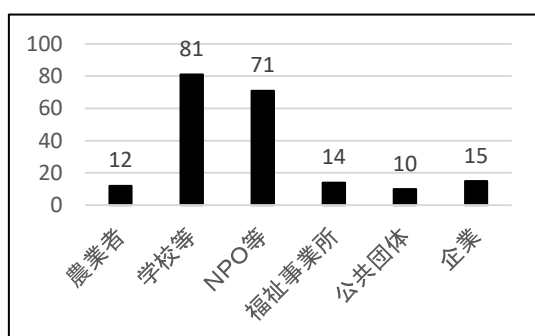
②月別箇所数



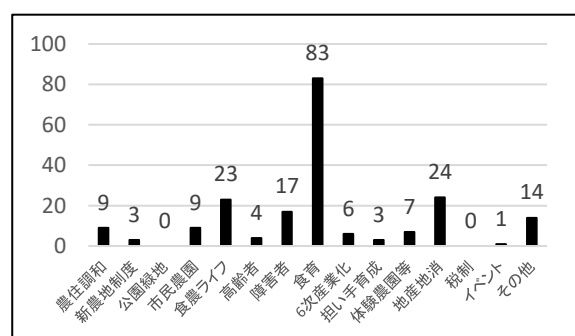
③圏域別箇所数



④依頼団体別箇所数

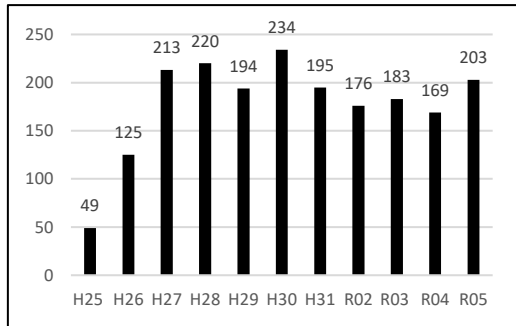


⑤テーマ別箇所数

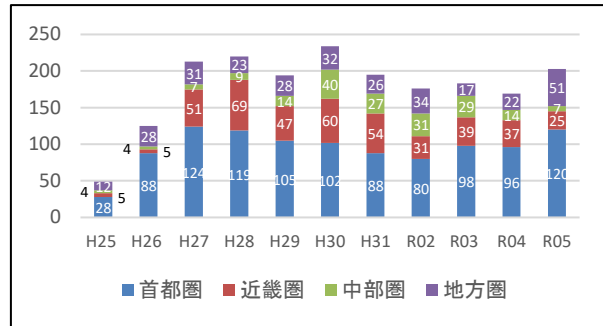


2. 過去11年間の事業推移（H25～R05累計）

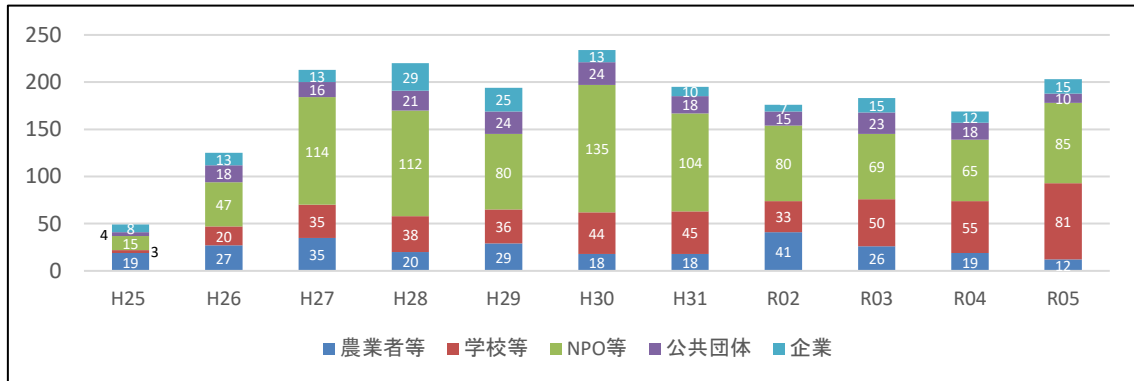
①年度別箇所数



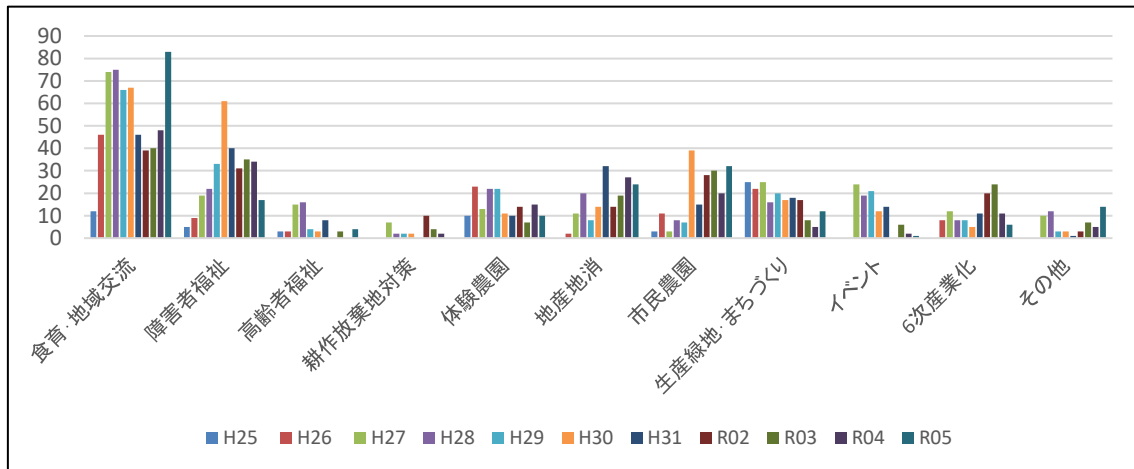
②年度別圏域別箇所数



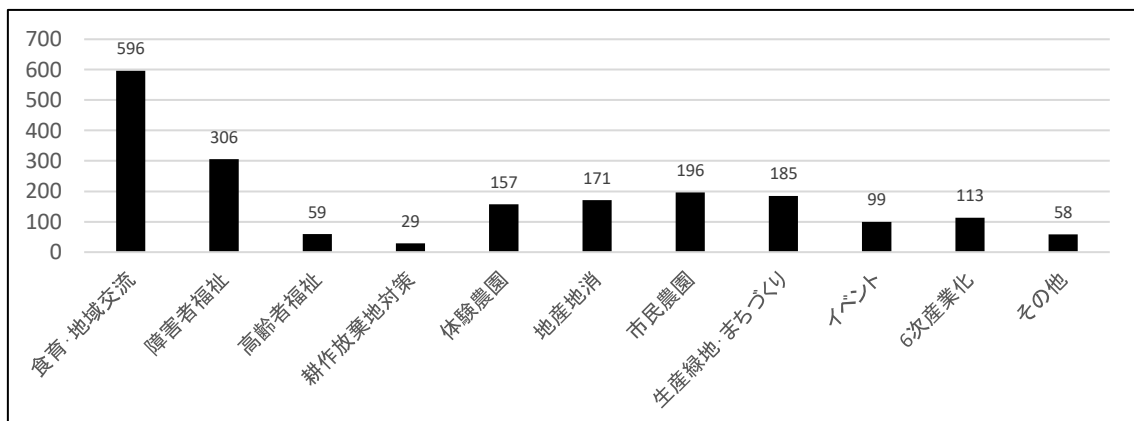
③年度別依頼者別箇所数



④年度別テーマ別箇所数



⑤テーマ別箇所数累計（H25～R05 累計：1,969 箇所）



3. 派遣箇所の詳細

(1) 分野別派遣箇所一覧

大分類	小分類	派遣先
(1) まちづくり 6件	1) 農住調和のまちづくり [防災農地の補償、生ごみコンポストの活用]	川崎市農地課(神奈川県川崎市)、あるけるミタカ研究所(東京都三鷹市・オンライン)、いわきコンポスト部(福島県いわき市・オンライン)
	2) 新しい都市農地制度 [都市農業の実践、生産緑地制度、日韓の都市農業比較]	滋賀県農政課(滋賀県大津市)、NPO 法人都市づくり NPO さいたま(埼玉県さいたま市)、Kim Dahyun 氏(オンライン)
	3) 公園と緑	
(2) 市民利用 20件	4) 市民農園 [初心者のための野菜作り、有機農法、農地活用、市民農園開設、市民農園活用策]	戸田市経済戦略室(埼玉県戸田市)、新居浜市自然農園を育てる会(愛媛県新居浜市)、にじのかけはし(大阪府和泉市)、静岡県食と農の振興課(静岡県静岡市)、千代ヶ丘地域交流農園管理組合(神奈川県川崎市)、しあわせ食生活(神奈川県川崎市)、千葉県安全農業推進課(千葉県千葉市)
	5) コミュニティ菜園・食農ライフ・農地や農的空間の創出 [耕作放棄地・屋上菜園の活用、食を通したSDG'sな環境づくり、循環型農園の実証、農業知識や技術の習得、大学敷地内の農的空間の創出、生ごみ肥料作り]	北海道恵庭市教育委員会(北海道恵庭市)、FUTATSUNOKI(東京都武蔵野市)、株式会社フードリボン(東京都世田谷区)、Family friend 子どもへのかけはし畑(大阪府泉大津市)、西東京農地保全協議会(東京都西東京市)、認定 NPO 法人日本都市計画家協会生産緑地研究会(東京都千代田区)、発酵の森(福岡県春日市)、みんなの菌ちゃん畑(香川県高松市)、食育ボランティアチームさぬきフレンズ(香川県三豊市)、トーキョーコーヒー木津城山台畑部(京都府木津川市)、愛菜ファーム Sin(香川県丸亀市)、日本社会事業大学(東京都清瀬市)、NPO 法人かきつ畑(愛知県知立市)
(3) 教育・福祉等 64件	6) 高齢者・生きがいづくり	グループ ハート to Heart「あさ北きずなサロン」(東京都杉並区)
	7) 障害者福祉等 [特別支援学校・特別支援学級での農作業の体験や農業の学習、就労支援事業所等での農福連携円滑化、農福連携事業の普及啓発等]	① 特別支援学校・特別支援学級 あきる野学園中学部(東京都あきる野市)、元八王子中学校(東京都八王子市)、松が谷中学校(東京都八王子市) ② 福祉事業所、農福連携 社会福祉法人マザアス(東京都清瀬市)、社会福祉法人まつぼっくり(鳥取県境港市)、一般社団法人こうち絆ファーム(高知県安芸市)、株式会社 meray(東京都小金井市)、NPO 法人エムワイピー農場(奈良県奈良市)、株式会社オンデーズ(東京都千代田区)、東海大学文理融合学部経営学科(熊本県熊本市)、高知県吾川郡いの町(高知県吾川郡いの町)、NPO 法人セルフセンター福岡(福岡県大牟田市)、一般社団法人こうち絆ファーム(高知県吾川郡いの町)、株式会社エフユー にじいろキャリア弥永

		(福岡県福岡市)、社会福祉法人大町市社会福祉協議会(長野県大町市)、株式会社ディスカバープロジェクト(兵庫県川辺郡猪名川町)
	8) 学校教育等の食育 [総合学習、社会科等での江戸東京野菜学習、いのちと自然、農業技術指導、食の大切さ、幼児が食農に親しむ]	① 東京都内小学校の授業 大和田小学校(東京都八王子市)、つつじが丘小学校(東京都昭島市)、千寿双葉小学校(東京都足立区)、光華小学校(東京都昭島市)、滝野川第三小学校(東京都北区)、中神小学校(東京都昭島市)、第一寺島小学校(東京都墨田区)、谷端小学校(東京都北区)、高倉小学校(東京都八王子市)、みなみ野小学校(東京都八王子市)、拝島第二小学校(東京都昭島市)、第二瑞光小学校(東京都荒川区)、第二亀戸小学校(東京都江東区)、水神小学校(東京都江東区)、三軒茶屋小学校(東京都世田谷区)、南小学校(東京都小金井市)、香取小学校(東京都江東区) ② 東京都内小学校を除く学校での授業 英彰小学校(大阪府堺市)、詫間小学校(香川県三豊市)、とさ自由学校(高知県吾川郡いの町)、大生院小学校畑の先生(愛媛県新居浜市)、泉川小学校(愛媛県新居浜市)、味原小学校(大阪府大阪市)、都立青峰学園中学部(東京都青梅市)、緑野中学校(東京都中野区)、原宿外苑中学校(東京都渋谷区)、八王子東高等学校(東京都八王子市)、東京女子学院高等学校(東京都練馬区)、新渡戸文化高等学校(東京都中野区)、駒場学園高等学校(東京都世田谷区)、学校法人鶴川学院農村伝道神学校(東京都町田市)、法政大学well-being ホースサークル(神奈川県相模原市)、法政大学現代福祉学部佐野竜平ゼミ(神奈川県相模原市)、桜美林大学サクベジプロジェクト(オンライン) ③ 保育園等 すみれ保育園(愛媛県新居浜市)、にじのいるか保育園(東京都杉並区) ④ 自治体や民間の社会教育 素の会(長崎県佐世保市)、ニオノチルビレッジ運営委員会(香川県三豊市)、社会福祉法人浪速松楓会(大阪府大阪市)、お米の勉強会(大阪府大阪市)、ワークショップKinchan-hakk「発酵クラブ」(長崎県佐世保市)、合同会社グリーンラボラトリー(大阪府大阪市)、NPO 法人きずな(愛媛県松山市・オンライン)、鴨志田農園(東京都三鷹市)、まあるいのうえん(東京都小金井市)、一般社団法人エディブル・スクールヤード・ジャパン(東京都中央区)、石徹白地区地域づくり協議会(岐阜県郡上市)
(4)都市農業	9) 6次産業化 [商品化、販路拡大、出荷作]	① 自治体、NPO 法人、協議会等 平原区自治会むらづくり委員会(奈良県吉野

29件	業の質の向上]	郡下市町)、有限会社サイズアソシエイツ(東京都港区) ② 農業者等 米粉パン教室 Copain(大阪府八尾市)、ひら自然菜園(滋賀県大津市)
	10) 担い手育成や農地確保	仰木自然文化庭園構想 八王寺組(滋賀県大津市)、一般社団法人畑会(東京都町田市)
	11) 入園方式等の農業経営 [入園方式紹介、市民参加型農業、CSA]	ZEN 呼吸法ジネン塾(長野県上田市)、農業者・相田直人氏(東京都調布市)、ワイファーム(東京都八王子市・オンライン)
	12) 地産地消 [有機栽培、伝統野菜、地元野菜の活用・周知・地域活性化、薬膳料理、セミナー、ワークショップ、イベント開催、新商品開発等]	一般社団法人小金井市観光まちおこし協会(東京都小金井市)、伊予市地域おこし協力隊(愛媛県伊予市)、高田馬場シニア活動館(東京都新宿区)、PARITALY(東京都小金井市)、東京都青果物商業組合(東京都千代田区)、株式会社エマリコにたち(東京都国立市)、江戸ソバリエ協会(東京都千代田区)、「農」に親しむライフスタイル推進府民会議(大阪府大阪市)、北区図書館活動区民の会 地域資料部会(東京都北区)、鎌倉だいこん未来研究クラブ(神奈川県三浦市)、にいがた在来作物研究会(新潟県新潟市)、有限会社知的財産管理ミクニコンセイエプリヴェ(東京都港区)、虹とおひさま(広島県広島市)、ucou(東京都東久留米市)、NPO 法人ゆうきハートネット(岐阜県加茂郡白川町)、荻窪保健センター 健康づくり自主グループ連絡会(東京都杉並区)、有限会社サイズアソシエイツ(東京都武蔵野市)、co.na.mon(兵庫県加東市)、日本中国料理協会北東京支部(東京都千代田区)、NPO 法人寺島・玉ノ井まちづくり協議会(東京都墨田区)
(5)税制その他 8件	13) 税制	
	14) 農業祭等のイベント	びえい農泊 DX 推進協議会(神奈川県鎌倉市)
	15) その他 [都市農地の活用法、都市農地保全と都市農業振興、農地法に関する法律実務]	株式会社パソナ農援隊(東京都江戸川区)、さいたま市農業政策課(埼玉県さいたま市)、母めし研究所(東京都国立市)、男の子育てサークルDADDY(愛媛県新居浜市)、特定非営利活動法人れんこん村のわくわくネットワーク(愛知県愛西市)、戸田市農業研究会(埼玉県戸田市)、一般社団法人 JELF(オンライン)

(2) 派遣事例 ※今年度は、分野3)及び13)については派遣取扱いなし

各事例の表上の文は、派遣依頼団体の概要及び派遣依頼内容、及びアドバイザー選定の経緯等について、当センターにて記載したものである。

また、表は、主として派遣依頼団体より提出された報告書を基に、派遣事例を整理したものである。(表中アドバイザーの氏名は敬称略)

事例一覧			
番号	派遣依頼団体(派遣場所)	番号	派遣依頼団体(派遣場所)
1	いわきコンポスト部(福島県いわき市)	14	法政大学well-beingホースサークル(神奈川県相模原市)
2	滋賀県農政課(滋賀県大津市)	15	すみれ保育園(愛媛県新居浜市)
3	Kim Dahyun氏(オンライン)	16	ニオノチルビレッジ運営委員会(香川県三豊市)
4	静岡県食と農の振興課(静岡県静岡市)	17	鴨志田農園(東京都三鷹市)
5	北海道恵庭市教育委員会(北海道恵庭市)	18	一般社団法人エディブル・スクールヤード・ジャパン(東京都中央区)
6	Family friend子どもへのかけはし畑(大阪府泉大津市)	19	平原区自治会むらづくり委員会(奈良県吉野郡下市町)
7	トーキョーコーヒー木津城山台畑部(京都府木津川市)	20	仰木自然文化庭園構想 八王寺組(滋賀県大津市)
8	グループ ハート to Heart「あさ北さずなサロン」(東京都杉並区)	21	株式会社エマリコくにたち(東京都国立市)
9	あきる野学園中学部(東京都あきる野市)	22	虹とおひさま(広島県広島市)
10	社会福祉法人マザアス(東京都清瀬市)	23	NPO法人ゆうきハートネット(岐阜県加茂郡白川町)
11	NPO法人エムワイピー農場(奈良県奈良市)	24	びえい農泊DX推進協議会(神奈川県鎌倉市)
12	とさ自由学校(高知県吾川郡いの町)	25	戸田市農業研究会(埼玉県戸田市)
13	駒場学園高等学校(東京都世田谷区)		

1) 農住調和のまちづくり

NO.1【いわきコンポスト部】福島県いわき市(於:天空のさとやま いわき)

いわきコンポスト部は約2年半前から生ごみコンポスト活動開始、いわきコンポスト部を5名(現在部員17名)で立ち上げ、生ごみコンポストの楽しさを共有する活動をしている。

コンポストを活用した菜園づくりの専門家である安西さんを招き、すでに生ごみコンポストを始めている人、これから始める人、始めたいけどなかなか始められない人たちと、生ごみを出さない循環生活の楽しさをシェアすることとした。

実施時期		令和6年1月～2月
依頼団体		いわきコンポスト部
専門家 (所属・氏名)		安西美喜子
会合の形態	開催方法	・オンライン開催(1回目)・現地(天空のさとやま)で開催(2回目)
	形式	・会議(1回目)・講演会等(2回目)
アドバイスの 内容・効果等	テーマ	(1回目) 生ごみコンポストの楽しさ、活用方法など具体的に実践できるようなアドバイスが欲しい。循環生活の楽しさや素晴らしさを発信し、もっと周りを巻き込んでいくためにはどうしたらいいか? (2回目) コンポストを始めるとどんなことが生まれるのか? コンポスト活動から地域のつながりを創造。地域の未利用資源の活用。
	アドバイスの 内容	(1回目) ◎コンポストと畑はセットで考えると良い。 ◎基材はEM ぼかしや、EM 活性液を買って堆肥作りしていたが、里山などにある腐葉土などが使える。 ◎コミュニティの良さは虫が出たりしてうまく行かなくなった時に、一人だとそれでやめてしまうが、グループでやっていると相談できるので問題解決しやすく続けられる。定期的に集まり、みんなでコンポスト堆肥のお世話をする生ごみ堆肥実験コミュニティガーデンを作ると良い。 ◎お試し参加の人も含めていわきコンポスト部の定員(15～20人)を決めてメンバーを募る。 ◎活動費は無料ではなく、500～1,000円徴収する方が責任を持って取り組めるのではないか。(道具を購入した場合の管理、収支報告が必要) ◎いわきコンポスト部としての、基本スタイルを作る。例えばバッグ型の場合の基材は、いわきで無理なく用意できるものを選定し、バッグ型コンポストを実践

		してみる。(基材例:腐葉土、もみ殻くん炭、糠など) (2回目) ◎いわき市の可燃ごみの中の生ごみの量の多さ現状を知る。 ◎堆肥作り(コンポスト)と畑をセットで考える(循環) ◎いわきコンポスト部としてのコンポスト基材など基本スタイルを決め、これから始める方へサポートができる。 ◎いわきコンポスト部としての大切にしたい思いを明文化する(頑張らない、自分のできる範囲で無理しない) ◎里山にあるものでみんなのコンポスト(木枠)を作る、頻繁に切り返しなどをを行い共同作業することで意識を高める。
アドバイスの効果		(1回目) 部員 1:コンポスト歴 1 年半くらい家庭菜園と循環生活を楽しんできたが、これからは循環生活をシェアする仲間を増やし人とのつながりを増やしたい。 部員 2:学校の子どもたちにペットボトルコンポストのワークショップ開催の夢 部員 3:自分が出した生ゴミからできた堆肥を使って安心して美味しい野菜を早く食べてみたい。 部員 4:社会が抱える問題、環境問題とコンポストの必要性、コンポストで解決できることをもっと知りたい。 部員 5:コンポストで繋がる小さなコミュニティが地域を作り、やがては世界平和を作る未来が来るのではないかとワクワクする。 (2回目) ◎循環生活の学びと気づきから生ごみコンポストを始めたい方が増えた。 ◎虫は循環を手助けしてくれる存在と知り、虫が理由で始められない方の不安が解消された。 ◎コンポストの楽しさが伝わりお話会後に 10 名の入部申し込みあり。
残る課題		(1回目) ◎コミュニティーガーデンの活動について、仕事や個人で畑を持っている方が多いためコンポスト部としての活動が負担にならないような活動内容を考える。 ◎お話会がきっかけでコンポストを始めるがコンポスト部には入部しない人、コンポスト部に入部する人との関わり方を考える。 ◎コンポストや基材などいわきコンポスト部としての基本スタイル決める。 (2回目) ◎いわきは農園や個人で畑を持っている人が多いため、さらにコミュニティーガーデンを持つと頻繁に来られないなど負担に感じる。 ◎いわきコンポスト部として活動スタイルを決める。
今後の方針		(1回目) ◎コンポストお話を 2 月 3 日に開催、仲間集めに繋がるコンポストの良さなどを伝える活動をする。 ◎「天空のさとやま」の畑の一角を、コミュニティーガーデンとして借りてチームで取り組む。 ◎コンポストを始めたくても始められない人、知らない人のキッカケ作りをしていく。 (2回目) ◎いわきコンポスト部で Line グループを作る。 ◎何に魅力を感じて入部したいと思ったのか確認する。 ◎生ごみコンポストで何がしたいのか聞く。 ◎コンポストお話会のオフ会を開催する。 ◎基材の準備(里山の腐葉土、里山の雑草、米糠など)



2) 新しい都市農地制度

NO.2【滋賀県農政課】滋賀県大津市（於：滋賀県庁）

滋賀県農政課では、都市農業の振興、都市農地の保全を進めるために、毎年県下の市町村担当者等に声をかけ、研修会を行っている。

今年は実際に都市農地を利用し自ら認定農業者となり、農福連携事業を実施している障害者就労支援 B 型事業所である、ぽかぽかワークスの工藤さんの話を聞きつつ、国の担当官からの最新の情報提供を受け、今後の報告について議論することとした。

実施時期		令和 5 年 9 月
依頼団体		滋賀県農政課
専門家 (所属・氏名)		ぽかぽかワークス・工藤勉
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・講演会等
アドバイスの 内容・効果等	テーマ	「滋賀県の都市農地の今後を考える」担当者研修会
	アドバイスの 内容	研修会では工藤様より「都市農業の実践について」御講演いただき、都市農地で農業を行う難しさや苦勞、成功談を通じて、生産緑地を活用した好事例を知ることができた。
	アドバイスの 効果	参加者に対して実施したアンケートでは、52%の方が今後の滋賀県の都市農地を「保全すべき」と回答され、都市農地を「あるべきもの」と考えるきっかけになったと考えられる。 また、「どちらともいえない」と回答された中にも、「都市農地の強み弱みを踏まえ、残すべきところと開発すべきところの整理は必要だと思うが、農地の果たす多様な役割を損なわないようにしたい。」という前向きな意見がみられた。 今回の研修で、都市農地を保全するための方策の一つとして「生産緑地制度」があることを初めて認識された参加者もあり、今後の制度の導入に向けた動きが期待される。
	残る課題	本研修での学びを、担当者レベルから都市農業者や都市計画関係者など、より広い範囲の関係者へ周知し、本県における都市農地の保全、都市農業の振興に繋げていく必要がある。
今後の方針		各市町単位での個別の取組を中心に支援していきたい。

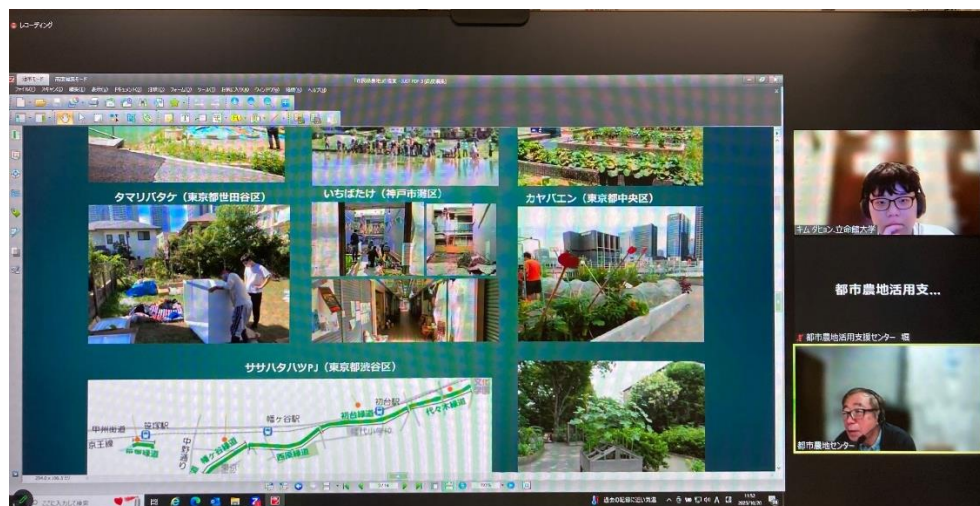


NO.3【Kim Dahyun 氏】オンライン

キムさんは立命館大学で学ぶ韓国出身の学生さん。日本の近年の都市農業政策の進展に興味があり、韓国やソウルで行われている都市農業支援策と比較し、卒業論文をまとめようとしている。

キムさんから韓国やソウルの最新事情の情報提供をいただきつつ、当センターの佐藤が論文をまとめるためのアドバイスをを行った。

実施時期		令和5年10月
依頼団体		Kim Dahyun 氏
専門家 (所属・氏名)		一般財団法人都市農地活用支援センター・佐藤啓二
会合の形態	開催方法	・オンライン開催
	形式	・会議
アドバイスの 内容・効果等	テーマ	韓国の農地不足問題の解消—日本の都市農業から着目—
	アドバイスの 内容	確かに、日本は韓国より都市農家への支援が豊富であることが分かった。その理由としては、日本の都市農業が商業的な側面が強いのが挙げられるだろう。
	アドバイスの 効果	どのように卒業論文を書いて行けるか目星がついた。
	残る課題	韓国で農地を保存・増加させるために、支援制度以外の方法を考える必要がある。
	今後の方針	マイファームとの取材の後、今までの情報を基に、論文執筆に入る予定。



4) 市民農園

NO.4【静岡県 食と農の振興課】静岡県静岡市(於:静岡県庁)

静岡県食と農の振興課では、毎年、県下の市町村の担当職員等を対象に、市民農園開設支援のための講演会を開催している。今年は「市民農園の開設と『市民農園における滞在』について」をテーマに実施した。

当センター主席研究員小谷から、制度の解説、事例紹介や防災協力農地としての市民農園の開設・運用方法について講義を行った(終了後、自治体個別の相談にも対応)。

実施時期		令和6年1月
依頼団体		静岡県 経済産業部 農業局 食と農の振興課
専門家 (所属・氏名)		一般財団法人都市農地活用支援センター・小谷俊哉
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・講演会等
アドバイスの	テーマ	「令和5年度市民農園開設講座」 講演内容「市民農園の開設と『市民農園における滞在』について」

内容・効果等	アドバイスの内容	1. 市民農園等の種類とその開設に関する法律・制度の説明 ・市民農園の種類と農業体験農園との違い、農地法上の農地とそれ以外の土地等で開設される市民農園の紹介（市民農園整備促進法、特定農地貸付法・都市農地貸借法、農業体験農園、農業公園の分区園等） 2. 自治体による市民農園等の開設・運営方法と留意点等の説明 3. 滞在型市民農園「クラインガルテン」の事例及び開設上の留意点について ・都市農地センター発行の事例集におけるクライン紹介の他、静岡県内におけるクラインガルテン開設事例も紹介 4. 防災協力農地としての市民農園の活用 5. 講座終了後：個別自治体への相談対応、情報提供（市民農園利用者の契約更新方法等について）
	アドバイスの効果	・行政職員が業務に関して抱える質問や疑問に回答頂いた。 ・市民農園の行政担当者の知識習得に繋がった（以下のような内容）。 ○滞在型の市民農園を開設する場合は、開設の目的を明確にすることが重要。 ○コロナ禍を経て市民農園のニーズが多様化している。在宅ワークの傍らに利用するなど。 ○防災協力農地として、被災者の一時滞在施設や避難者の癒やし効果が期待される。
	残る課題	・市民農園の利用者を増加させるための取組み。 ・市民農園を効果的に宣伝する手法。
	今後の方針	・令和6年度も継続して行政職員向けの講座を開設する。



5) コミュニティ菜園、食農ライフ

NO.5【北海道恵庭市教育委員会】北海道恵庭市（於：恵庭市民会館）

恵庭市長寿大学は昭和51年8月に開校し、今年で48年の伝統のある高齢者（63歳以上）を対象とした大学である。一時期は学生数300名を超えた時もあったが、コロナ禍で減少傾向が続き、現在は92名である。

今回はそのプログラムの一つに食農ライフを位置付け、自身ドイツのミュンヘンでクラインガルテンを体験し、それを基に北海道で市民農園の専門家として活動している木佐さんを講師として、家庭菜園や市民農園で野菜作りを進める際の心得や注意点、また、初心者への野菜作りの基礎的な栽培方法や栽培技術、無農薬野菜の育て方などをアドバイスしてもらった。

実施時期		令和5年6月
依頼団体		北海道恵庭市教育委員会
専門家 (所属・氏名)		恵庭市民農園協会・木佐和美
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・講演会等
テーマ		食農ライフ～家庭菜園・市民農園で楽しもう

アドバイスの 内容・効果等	アドバイスの 内容	参加者の多くが自宅や市民農園で野菜作りを行っているが、上手く野菜栽培ができずに悩むことから、そのような悩みが解消されると共に、市民農園の魅力や役割についてのお話しをお願いした。 講話の前半は、講師のドイツ・ミュンヘンでの貴重な体験を話題にしながら、市民農園の歴史や役割・機能などについて説明された後、「作付け計画」や「土づくりの方法」など、野菜作りの基礎的な事柄を説明された。 後半は、北海道で栽培される主な野菜を取り上げて、自分の栽培経験を基にしながら、一つひとつ具体的に栽培方法を説明された。
	アドバイスの 効果	お話の内容はとても参考になることばかりであり、参加者にとってとても有意義な時間となった。なお、質問に対しては、オブザーバーの中野雅章氏（元恵庭市花野菜技術センター場長）が中心となって、丁寧に対応してくださった。
	残る課題	
	今後の方針	今後は、機会があれば野菜作り以外に花の栽培方法や庭園作り等についてもお話を伺いたいと思う。



NO.6【Family friend 子どもへのかけはし畑】大阪府泉大津市（於：テクスピア大阪）

「Family friend 子どもへのかけはし畑」は大阪府泉大津市に所在する市民グループで、会員は子供からお年寄りまで幅広く、子どもたちの食の安全・安心、生きる土台、居場所づくりをテーマとし、大人と子どもがー丸となつての活動を通して、会員相互の親睦と理解を深めると共に、挑戦する力や生きていくための知恵を育み合うことを目的に活動している。

和泉市や泉大津市の約 500 坪の畑で農作業を行っているが、そこでの活動の内容は、1. 自然農業に関する知識や技能を習得するための体験（うね作り、種まき、草刈り、作物の収穫など）、2. 大人や子どもの地産地消の意識を高めるための専門家を招いた勉強会の開催、3. 季節ごとの収穫祭を通した食のありがたさやコミュニティ作りの深化、4. その他目的を達成するための事業である。

今回は岸和田市で、市民菜園や食育の指導を行っている専門家の奥野さんを招き、農業に関する知識や技術を習得する学び 土づくり（栄養と菌のおはなし）・春夏野菜の栽培法について講義してもらった。

実施時期		令和 5 年 8 月
依頼団体		Family friend 子どもへのかけはし畑
専門家 （所属・氏名）		いなほ料理教室・奥野博美
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・講演会等
アドバイスの 内容・効果等	テーマ	自給農に大切な土づくりと菌のおはなし
	アドバイスの 内容	・土づくり（栄養と菌のおはなし） ・春夏野菜の振り返り 初心者向けに、スライドと図を用いて詳しく解説

アドバイスの効果	畑、特に土づくりの大切さや知識が習得できた。 畑を始めたばかりで、思うような収穫がないため、今後、畑での土づくりに役立てることができる。
残る課題	長く使用していなかった畑で作物を作るには、土づくりに時間がかかりそうである。 自然農を目指しているが、土壌の状況を見極めながら、年間の栽培計画を立てて、土づくりをしていくこと。
今後の方針	勉強会の定期開催を実施すべく調整を行っていく。



NO.7【トーキョーコーヒー木津城山台畑部】京都府木津川市（於：Paint cafe）

トーキョーコーヒーは、主に不登校の子供を持つ保護者や、それに理解のある大人が集まって活動しており、奈良県の生駒で2022年8月に始まってから一気に全国に広がり、現在は 360 箇所以上の拠点で活動が行われている。

今回依頼のあった京都府木津川市の木津城山台もその拠点の一つで、農家の支援をもらいながら耕作放棄地を利用した農作業を行っているが、土づくりの指導や農薬を使わない手作りの農業について、菌ちゃん農法の専門家吉田さんにアドバイスをしてもらった。

実施時期		令和6年2月
依頼団体		トーキョーコーヒー木津城山台畑部
専門家 (所属・氏名)		農業法人(株)菌ちゃんふぁーむ・吉田俊道
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・講演会等
アドバイスの 内容・効果等	テーマ	耕作放棄地での畝立て。 無農薬無肥料、雑草を活用した土作りを地元農家さんに知ってもらう。
	アドバイスの 内容	今回実演会場となった耕作放棄地は水はけが悪く、作業がしにくい土地だった。通常土を掘って枝などを埋める作業をするところを、掘らずに上へ盛る形で指導を受けた。 土も十分濡れていたため草をかぶせた後、散水してすぐに黒マルチで覆い、3ヶ月ほど置く。 講演会では土作りのおさらいに加えミネラルや免疫力、弱い野菜ほど虫がつかない理由、農業の世界を元にした、健康のお話などをうかがった。
	アドバイスの 効果	講演会に参加くださった農家の方に、菌ちゃん農法を実践してみたいと興味をもってもらえ、質疑応答も活発に行われた。 慣行農法が主流の木津川市で新しい知識に触れられる良い機会になり、環境にやさしく栄養満点で身体に良い農産物を、少しでも広げられるようなきっかけ作りができたと思う。
	残る課題	今回の実習地があまり良い土地ではなかったため、うまく改良できるか、またそ

		の確認や作業を継続して行えるか。
	今後の方針	今回新たな知識を持って作業をしてくださる農家さんたちのコミュニティの形成。町全体の農業をできるだけ良いものへ、延いては学校給食を有機へ、という夢へ近付くためには農家さんが団結する必要もあると思うため、そのために出来ることをやっていきたい。



6) 高齢者・生きがいづくり

NO.8【グループ ハート to Heart「あさ北きずなサロン」】

東京都杉並区（於：杉並区立コミュニティふらっと東原）

グループハート to Heart は、地域の人が住み慣れた町でいつまでも安心して生活ができる地域を目指し、みんなで力を合わせて作った「皆さんの居場所」である。憩いの場、交流の場、学びの場として誰でも気軽に利用できるサロンで、平成14年（2002年）から活動している。「あさ北きずなサロン」は、2015年より杉並区立「コミュニティふらっと東原」で毎月第1・3水曜日 13:00～15:30 に開催されており、毎回講師を招いて知識を深める「暮らしの情報コーナー」を実施している。

今回は「江戸東京野菜の物語」の著者、大竹道茂さんを招いて、杉並を中心に伝統野菜と地域の歴史について講義してもらった。

実施時期		令和5年6月
依頼団体		グループ ハート to Heart「あさ北きずなサロン」
専門家 (所属・氏名)		江戸東京野菜コンシェルジュ協会・大竹道茂
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・講演会等
アドバイスの 内容・効果等	テーマ	江戸東京野菜の物語
	アドバイスの 内容	東京の宅地化が進み畑が無くなったことで、昔から受け継がれてきた野菜や、暮らしぶりや文化も忘れられたが、生産者や地域の人たちの協力を得て伝統野菜が復活した話に感動しました。 練馬大根や小松菜のエピソード、伝統野菜の種は農家が採取し栽培していたが、不揃いで流通には適さないことから業者が開発した種で栽培するようになったこと、江戸野菜の種を参勤交代の大名や家臣が持ち帰り栽培したこと・・・、地元杉並は独活の産地であったこと、また、その栽培法も大変興味深く伺いました。 講師の歯切れの良い間の良い話しぶりも心地よく、引き込まれアツとゆう間に時間が過ぎてしまいました。

アドバイスの効果	参加者の方からは、「美味しそうな野菜の話して、心の栄養になりました」「東京人にとって誇らしい気がします」「もっと話が聞きたい、機会があったら参加したい」などのご意見をいただきました。
残る課題	
今後の方針	もっともっと大勢の方に先生のお話を聞いてほしいと感じております。



7) 障害者福祉等

①特別支援学校・特別支援学級

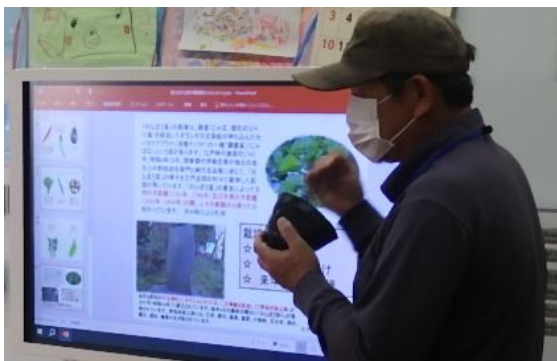
NO.9【都立あきる野学園中学部】東京都あきる野市（於：都立あきる野学園）

あきる野学園はあきる野市にある特別支援学校で、小学部、中学部、高等部を有する大きな施設である。

今回は肢体不自由教育部門の中学部で地元の江戸東京野菜である「のらぼう菜」作りに挑戦することとなったため、アドバイザー制度を利用し、地元農業者である福島専門家を3回派遣し、種まきから収穫まで指導してもらった。

実施時期		令和5年9月～12月
依頼団体		あきる野学園中学部
専門家 (所属・氏名)		株式会社小城プロデュース・福島秀史
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・その他(授業)
アドバイスの 内容・効果等	テーマ	(1回目)のらぼう菜の種まき (2回目)のらぼう菜の植え替え (3回目)のらぼう菜の成長過程観察、冬支度
	アドバイスの 内容	(1回目) ・江戸東京野菜とのらぼう菜について話をいただいた。種を引き継いで行くことの大切さを学んだあと、種まきの指導をしていただいた。また、種を蒔いた後のポットの管理についても温度管理を中心にアドバイスをいただいた。 (2回目) ・指導を頂きながら植え替えを行った。併せて種の蒔き直しについても指導を頂き、作業を行った。 (3回目) ・2グループにおける育ち方の違いについて考える機会をいただいた。肥料のまく時期、まき方の指導をいただいた。 ・質問時間をいただき、生徒からのらぼう菜の調理方法や合う調味料について、のらぼう以外に育てている野菜についてのお話を聞くことができた。

アドバイスの効果	(1 回目) ・参加者が、江戸東京野菜について興味をもつことができた。また、無事に発芽させることができた。 (2 回目) ・苗を植え替える、種を蒔く作業を行うことができた。虫食いがあった場合の対処法についてアドバイスを頂くことができ栽培に活かせるようになった。 (3 回目) ・肥料をまくポイントを教わり、子どもたちに考えさせながら成長を見守ることができている。植物に語り掛けるように、大事に育てる気持ちをもって栽培をすることができている。 ・話し合いの中で、福島さんから堅い話ばかりではなく身近な話題などを取り上げてくださったことで、子どもたちにもわかりやすく、楽しい時間を過ごすことができた。
残る課題	(1 回目) ・発芽から、苗に育てること。 (2 回目) ・食害を防ぐ対策。 ・冬を越す支度。 (3 回目) ・のらぼう以外に自分たちで育てられる植物はあるか。 ・昨年度、種の成長が思わしくなかったので、良い種が収穫できるように栽培を続けること。
今後の方針	・収穫まで観察、育成し、来年度 5 月頃に種とりを行う予定。来年度もぜひ交流を続けていきたい。



②福祉事業所、農福連携

NO.10【社会福祉法人マザアス】

東京都清瀬市（於：社会福祉法人マザアス 東久留米拠点）

マザアスは介護保険に関わる高齢者施設を中心に、東京都内で広く事業を営んでいる法人である。新たに清瀬市で障害福祉サービスとして就労支援 B 型事業所を開設し、近隣の農家と共に農福連携に取り組んできた。今後、利用者の農作業スキル向上を目的として、東久留米市内の高齢者施設の敷地一角に利用者のトレーニング圃場を計画しており、併せて高齢者施設利用者へのサービスにもつながる場所を目指している。

今回は、アドバイザー派遣事業により、高槻で自ら「晴耕雨読舎」を実践している石神さんを招き、多くの人の集える場のイメージや類似事例について教えてもらった。

実施時期	令和5年10月
依頼団体	社会福祉法人マザアス
専門家 (所属・氏名)	NPO 法人たかつき・石神洋一

会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・会議
アドバイスの内容・効果等	テーマ	①就労継続支援 B 型事業所を利用する方の「トレーニングほ場」として畑をつくる。 ②介護サービスご利用者の園芸療法としての畑をつくる。 上記を目的として、高齢者福祉総合施設マザアス東久留米の敷地内の空きスペースを畑に活用することをテーマとして、専門家に相談する。
	アドバイスの内容	①トレーニングほ場としての使い方については、高い評価をいただく。 ②介護サービス利用者の園芸療法について、専門家が実践されていることについて詳細を教えていただく。 ・ご利用者1人1人が責任をもって管理する方法 ・実費についてはご利用者に負担していただく方法 ・職員が手を出し過ぎないこと いずれも実践的なアドバイスをいただく。 ①、②を通して、小さい範囲から進めることを助言いただく。
	アドバイスの効果	現在、畑をどのようにつくっていくかのプランニングをしているところ。小さい範囲で継続できる畑を目指し組織内で担当者を決め検討している。
	残る課題	農業の専門家のアドバイスを受けて、作付計画などをプランニングしたい。
	今後の方針	・今年度は、○組織内での準備(取組みの周知)、○農業専門家のアドバイスをどのように受けるか、○令和 6 年 3 月までの計画を完成させる ことを目標としている。 ・方針としては 就労継続支援 B 型事業所ご利用者の農作業スキルを高める 介護サービス利用者にとって、生きがいの役割 地域の方々と一緒になって、楽しめる場 を掲げ事業を進めていきたい。



NO.11【NPO 法人エムワイピー農場】奈良県奈良市(於:MYP ユニバーサル農園)

障害者就労支援事業を行っているユニバーサル農園を運営している NPO 法人。

連作障害が起きにくいというメリットに着目し、砂栽培でリーフレタスの周年栽培を行っており、専門家のアドバイスを得てそのマニュアルを作りたいと考えた。また、今年から近畿大学の協力を得て新たにメロンづくりにも取り組もうとしており、その面での指導も期待している。

実施時期		令和5年7月～11月
依頼団体		NPO 法人エムワイピー農場
専門家 (所属・氏名)		株式会社オーガニックワン・鈴木健太郎
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・会議 ・その他(指導)

アドバイスの 内容・効果等	テーマ	(1 回目) 砂栽培による農福連携のアドバイスと農業計画について (2 回目) 低コスト耐候性ハウス内での高設砂栽培によるレタスの連作栽培を障害者等 が担えるマニュアル作り(農福連携マニュアルの作成)の基礎となる栽培計画・ 発芽計画の作り方と運営方法 (3 回目) 2 回目同様。 ・秋から冬の対策 ・農福連携(6次産業化)でのメロン栽培の注意点
	アドバイスの 内容	(1 回目) ・砂栽培でのレタス栽培のポイントと農福連携でのスタッフ(生活支援委員・職 業指導委員・目標工賃達成指導員)の役割 (2 回目) ・夏期(高温期)の栽培方法(葉面の両面散布)の具体的な方法や養液の種 類・量の指導 ・栽培計画の基本的な考え方、作成方法と日報の記入の仕方、経費管理の重 要性 ・砂栽培でのメロン栽培のポイント(養液管理、害虫駆除、病気の味方) (3 回目) ・レタスの両面散布の結果の検証 ・レタスの農業散布のアドバイス ・メロンの栽培計画(定植・収穫) ・メロンの薬剤カクテルの散布計画と散布方法の指導
	アドバイスの 効果	(1 回目) 特に夏場のレタス栽培の具体的な技術指導 ・スタッフのやあ区割り ・利用者の仕事内容 ・夏場のレタス栽培の両面散布方法の指導 (2 回目) 夏場のレタス収穫の方法 ・利用者にみえる計画が作成できた。 ・利用者に合った両面散布の具体的な指導ができるようになった。 ・弊社に合った日報が作成できた。 メロン栽培 ・病気の発見と対処方法が分かった。 (3 回目) ・レタス栽培は、計画通りの出荷ができるようになった。 消費者からの評判も高いと聞いています。 ・メロン栽培の準備が分り十分な準備が出来、計画を立てることが出来る。
	残る課題	(1 回目) ・栽培計画・発芽計画の作り方と運営方法 (2 回目) ・季節の変わり目となる時期10月～11月くらいにおけるレタス栽培の計画と具 体的な指導 ・メロン栽培の収穫方法 (3 回目) ・レタス栽培が1年8回転できるようになる。 ・メロン栽培が計画通りにできるか。
	今後の方針	(1 回目) ・農福連携でのレタスの栽培計画・発芽計画の作成 (2 回目) ・農福連携をいかしたユニバーサル農園運営と、レタスとメロンの年間計画の 作成 (3 回目) ・レタスとメロンを計画通りに栽培する。



↑レタス栽培指導

8) 学校教育等の食育

②東京都内小学校を除く学校での授業等

NO.12【とさ自由学校】高知県吾川郡いの町（於：とさ自由学校）

高知駅から車で 45 分、大自然に囲まれた立地の「とさ自由学校」は、座学が中心の一般的な小学校とは異なり、環境を活かした様々な体験を通じて学ぶというスタイルのユニークな学校で、全国からそこに惹かれて移住者が来るほどの人気である。

三上奈緒さんは、「旅する料理人」として、自然の中で身近にある食材を利用した食育を実践している専門家で、今回は地元の農作物を使ったおやつ作りを通じて、子供たちに農業の大切さを学んでもらった。

実施時期		令和5年9月
依頼団体		とさ自由学校
専門家 (所属・氏名)		三上奈緒
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・講演会等
アドバイスの 内容・効果等	テーマ	タイと高知の食材をかけあわせたおやつ作り
	アドバイスの 内容	旅する料理人である三上奈緒さんがタイを旅してきたため、タイと高知の食材をかけあわせておやつ作り(カノムサイサイ)を行った。生地に混ぜたのは、学校裏に生えているからむしの葉。中には、高知県内の有機農家さんからいただいたさつまいも。高知県内の別の有機農家さんが育てたゴマをトッピングした。わたしたちは、身近にある食べ物を当たり前で食べているけれど、そこには、育ててくれた人、その過程、すべてに物語があるということ。
	アドバイスの 効果	子どもたちは、ごまがどのようにできているのか知らず、最初は歓声があがった。また、ごまの選別が思っている以上に時間がかかるかわかり、「一粒には、いくらの価値があるのか。」と頭を抱える姿が印象的である。児童の感想には、「ごま1粒にはたくさんの神様がいて…となおさんから学んだ。」という感想が並んだ。後日、児童の保護者より、『家に帰ってくるなり、ごまの袋の裏面をみて、「オーガニックなのに、にほんでつくられていないじゃないか…。』と、ごまに興味が出てきたようです。』という言葉や、「カノムサイサイの意味は、おやつつつむ、つつむなんだよ。」と嬉しそうに語る姿が見られたといった声が届いた。子どもたちが、給食に出てくるものについて、「この食べ物は、わたなべ農園さんのたまねぎだよ!大事に作られているから、残さず食べなきゃ。」など、子どもたちが食材に興味関心を持ち、大事に食べようとする姿勢が増えてきている。

	残る課題	特になし
	今後の方針	より、有機で生産する農家さんたちと、子どもたちが交流できる機会を作りたい。また、野外で炊事をしたり、「五感」を存分に使うことのできる活動を積み重ねていく。今後も、高知県内の食材を使用して、野外で炊事を行っていく。



NO.13【駒場学園高等学校】東京都世田谷区（於：駒場学園高等学校）

駒場学園高等学校には、多彩な体験・探求学習を通じて調理師免許が取得できる、食物調理科コースがある。

調理師を目指すうえで、自分たちの暮らす東京都の農業について知り、推奨されている地産地消の理解を深めたいと考え、アドバイザー派遣事業を利用し、専門家の水口さんから江戸東京野菜について講義してもらうことにした。

実施時期		令和5年6月
依頼団体		駒場学園高等学校
専門家 (所属・氏名)		JA 東京中央会・水口均
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・講演会等
アドバイスの 内容・効果等	テーマ	江戸東京野菜について
	アドバイスの 内容	・江戸東京野菜の歴史から種類について講義をしていただきました。 ・また、寺島茄子と馬込半白胡瓜を持ってきていただき、詳しい歴史や栽培について教えていただきました。
	アドバイスの 効果	・一般的に販売されている茄子と胡瓜の食べ比べも行い、違いなどを考察することができました。さらに、調理師としてメニュー開発をする際の一助となるものとなりました。
	残る課題	特になし
今後の方針		・学校内で行われる行事でのメニュー開発や、地域販売の際に、江戸東京野菜を使用したいと考えます。また、屋上を利用して江戸東京野菜の栽培にも挑戦したいと考えています。



NO.14【法政大学 well-being ホースサークル】

神奈川県相模原市（於：法政大学多摩キャンパス城山校地馬術部馬場）

法政大学多摩キャンパスにおいて馬とのふれあいや乗馬を通じて「人馬のウェルビーイング」を体現することを目指して活動しているサークルで、馬糞の堆肥化など「馬」を基軸にした循環型経済活動にも挑戦している。

昨年からキャンパス敷地内に「人馬のウェルビーイング農園」を開設し、馬糞堆肥を利用して江戸東京野菜を栽培している。専門家の福島さんの指導を得て、馬糞堆肥についての学習を深めると共に、馬の好物の人参栽培に取り組んだ。

実施時期		令和5年6月
依頼団体		法政大学 well-being ホースサークル
専門家 (所属・氏名)		小城プロデュース・福島秀史
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・その他(実地講習)
アドバイスの 内容・効果等	テーマ	「人馬のウェルビーイング農園」における循環型経済活動
	アドバイスの 内容	・馬糞堆肥を活用した農園作り ・伝統野菜である江戸東京野菜の継続的な栽培サイクル構築 ・農作業に慣れていない大学生が、学びながら実践する仕組み作り
	アドバイスの 効果	・馬糞堆肥を使用する際、その量や場面が大切になってくる。適切に使用しなければ逆効果にもなりえる為、しっかりと完熟した馬糞堆肥を既存の土と混ぜ合わせるように投入した。 ・繊細で希少な江戸東京野菜を大学構内で栽培することの意義を、参加者全員で共有した。 ・水やりと雑草除去を、農園の状態をよく観察しながら適切に実施するよう指導を受けた。
	残る課題	・滝野川大長ニンジン栽培が特に難しいため、定期的な状況確認と、都度育成方法の修正を予め考案しておく。馬を紫陽花に接触させない様にする。
	今後の方針	・大学生が栽培過程に責任を持ち、連携しながら実践することを目指す。



③保育園等

NO.15【すみれ保育園】愛媛県新居浜市（於：すみれ保育園）

すみれ保育園では「様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを養う」ことを目指しており、園内の花壇を利用し生ごみを使った土づくりに取り組んでいる。

アドバイザー派遣事業を利用し、「菌ちゃん農法」の吉田専門家を招いて、実地での体験・指導と土づくりの大切さについての講話をお願いした。

実施時期		令和5年9月
依頼団体		すみれ保育園
専門家 (所属・氏名)		株式会社菌ちゃんふぁーむ・吉田俊道
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・その他(生ごみ土づくり)
アドバイスの 内容・効果等	テーマ	保育園児による「生ごみ土づくり」の実践と「食育」
	アドバイスの 内容	実践では、①家庭から持ってきた野菜くずと学校給食センターから持ってきた野菜くずをブルーシートに広げ、菌ちゃんが食べやすいように小さくちぎり、②成長点を教えてもらい、木槌で細かく砕き、③ブルーシートを折り畳んで、体重をかけて潰し、④米ぬかボカシを混ぜました。⑤それを花壇に持って行って、土の上にまいて土と混ぜ、⑥土の上に発泡スチロールを置いて、ブルーシートをかけて、重しをしました。 「食育」は、室内で①あいっぺ体操。②海(いりこ)を食べる。③のどが乾いたらジュースじゃなくて水かお茶。という3点を教えていただきました。
	アドバイスの 効果	園児(年長)も大変喜んで楽しく学ぶことができました。
	残る課題	
	今後の方針	前回(2年前)も年長さんを対象に「生ごみ土づくり」を実施していただきました。来年度もしていただけるとありがたいです。



食育→



④自治体や民間の社会教育

NO.16【ニオノチルビレッジ運営委員会】香川県三豊市(於:ニオノチルビレッジ)

「ニオノチルビレッジ」は日本のウユニ塩湖と呼ばれる海辺のまち、香川県三豊市仁尾町に、学校の中では生きづらさを感じている子供達の第3の居場所「チルビレッジ」をつくろうと取組んでいるプロジェクト。

古い寺町の情緒残る、仁尾町の街道裏にある築100年の古民家を拠点に考えているが、完成に先駆け、三豊町

で「菌ちゃん農法」による食育に取り組んでいる専門家の則久さんに指導してもらい、3回シリーズで子供たちに土作りから収穫まで一通り体験してもらうことで、土や農、食についての理解を深めようと考えた。

テーマは麻袋と生ゴミで土から育てる冬野菜作り（麻袋を使った土作りワークショップ、冬野菜の種まき、冬野菜の収穫とお料理）。

実施時期		令和5年8月～12月
依頼団体		ニオノチルビレッジ運営委員会
専門家 (所属・氏名)		オフィス IKUYO・則久育葉
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・講演会等 ・その他(実体験)
アドバイスの 内容・効果等	テーマ	麻袋と生ゴミで土から育てる冬野菜作り。子供達の第3の居場所としてやってみたい、知りたいが育つ農体験の実施。ただやり方を教えてもらうだけで終わらず、生ゴミを入れた土と入れていない土を作って比較したり、実際に土が育っているのか、生き物がいるのか顕微鏡を使用して調査したり、自分たちの暮らしへ取り入れやすい知識と体験から、「土」への興味のきっかけをつくる。
	アドバイスの 内容	(1回目) 麻袋を使って生ごみを使用して土を育てるという、家庭でも取り入れやすい方法を実践で教えてもらう。その後土や菌についての紙芝居を通して、子どもたちでも分かりやすい内容で伝えていただきました。 (2回目) 前回土作りを行い、今回は2回目。育てた土を確認し、実際に冬野菜の種を植える。種の蒔き方、育て方を、体験を通しながら実施。また種蒔き後は保護者向けに土作り、食育についてのセミナーを実施。 (3回目) 土作り、種蒔きをして、今回の3回目が集大成でした。育てたお野菜を収穫し、これまでの土作りからの半年間を振り返りました。お料理をするときのポイント、お野菜の栄養のことなども教えてもらいながら、収穫したお野菜を使用してお料理体験、できたご飯はみんなていただきました。
	アドバイスの 効果	(1回目) 実際に体験を通して、大人も子供も自分たちの体を作っている「土」や「食べ物」に興味を持ってもらうことが出来ました。 (2回目) 土を育て始めてから実際に土が暖かくなっていることを触れて実感したり、菌を顕微鏡でのぞいて発見したり、1ヶ月半で土を育てる間に、麻袋プランターが分解されるくらい、土の中の微生物がそだっていることを知って大変驚きました。答えを教えてもらうのではなく、そんな体験から自分で考えることができることもとても良かったです。プランターが破れて移動させることができない、という想定外のことが起こった時は男の子たちが大活躍。一生懸命土を集めたり、運んだりしてくれて、参加している子供たちが、それぞれの自分の個性をいかして体験できていると思います。また実際に体験をした後に今回は保護者の方に向けてお話ししていただき、より実感を持って理解されたことと思います。早速お話の内容を家庭でとりいれているお声もいただきました。 (3回目) 前回の種蒔きから、種がなかなか発芽しない、虫に食べられてなくなってしまう、思ったように育たないなど、想定外のアクシデントが起きましたが、そんな体験を通して生産者さんの苦労や、マニュアル通りにいかない自然のこと、また発芽のためにはタイミングや温度が大切であることなどたくさん学びがありました。蒔き直した種は自宅に持ち帰って育てるなど積極的に親子で関わっていただくこともできました。初めての栽培だったので、困りごとや、わからないことがあった時に相談できたことがとても心強かったです。収穫時期も、なかなか読めず、最後の収穫体験のタイミングでは全員参加することが叶いませんでいたが、参加できなかった方たちのために別日で機会を作っていただくこともできました。お料理は子供たちがとても主体的に参加してくれたことが印象的でした。則久さんのアドバイスに、切り方を工夫したり、質問したり、お互いに役割分担したり、

		家庭ではなかなかできない体験ができ、改めて実体験と、食の大切さを感じられました。今回、にんじんはうまく育たず、菌ちゃん農園で育った人参を則久さんが用意くださり、スーパーの人参と食部比べてその味の違いを感じることもできました。楽しい気持ちと共に、食や土のことを知ったり感じてもらえたのではないかと思います。
	残る課題	3回のシリーズで、土作りから収穫まで一通り体験してもらうことで、土や農、食について深く体験してもらうように考えています。想定通りいかないことも多く、1度ではなかなか農を理解することは難しいと感じました。また、季節によってとれる作物の違いや育て方などの違いもあると思います。今回は拠点が常設前だったので普段人がいないという課題もありました。継続してこそたくさんの方の気づきがありそうだなあと感じました。
	今後の方針	(1回目) 作った土の育て方やそれに合わせての変化も参加型で実施し、「ただ教えてもらうだけでなく、体験や探求を進めていきます。」 (2回目) 作った土でどんな風にお野菜が育っていくか参加者の LINE グループを通して参加型で共有していきます。今回育てていない土、また化学肥料をあげるプランターも作り実際に比較していけるようにしています。 (3回目) 拠点の常設化に伴い、継続してお野菜を育てていくことでより多くの人に気軽に参加できる形を考えていく。



9) 6次産業化

①自治体、NPO 法人、協議会等

NO.17【鴨志田農園】東京都三鷹市(於:鴨志田農園)

鴨志田農園は『どういう野菜をつくるか=どういう社会をつくるか』という理念を掲げ、落葉堆肥、草質堆肥、牛フン堆肥等の自家製完熟堆肥を利用して、土着微生物を活かした農業を営んでいる。その一環として年間契約で農園の野菜を購入してもらう会員限定で、家庭から出てくる生ごみを堆肥化して、その肥料で美味しい野菜をつくり、各家庭の食卓に戻す循環を生み出す取り組み(サーキュラエコノミー型 CSA)を行っている。

今回三上さんをアドバイザーとして、会員を対象に一緒に農作業し農園でとれた野菜で焼き火料理を一緒に作り、食べる場所までの食育イベントを実施してみることとした。

実施時期	令和5年11月
依頼団体	鴨志田農園

専 門 家 (所属・氏名)		三上奈緒
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・講演会等
アドバイスの 内容・効果等	テーマ	鴨志田農園の CSA を介した食育の可能性について
	アドバイスの 内容	主に、当園で行っているサーキュラエコノミー型 CSA の会員の皆様を中心に、農園を中心とした食育の可能性について実際のイベント運営を介して学びを深めた。イベントでは、三上さんから具体的なイベント運営についての助言や会員の皆さんとの対話を通して、当園で出来る食育の可能性について学びを深めた。
	アドバイスの 効果	都市農業における食育の可能性についての選択肢を多く持つことができたので、今後の農園でのイベント運営について活かしていきたい。
	残る課題	今回、食育イベントについての理解を深めることができた一方で、1度来ていただいただけでは農園としての食育の継続性をつくっていくことは難しいと感じた。そのため一年程度継続的な取り組みで三上さんに関わっていただけたらと思うを強く抱いた。
	今後の方針	食育イベントの後に、三上さんと打合せをさせていただき、2024 年 2 月 24 日（土）10:00～15:00 に今回の食育イベントの延長線上で都市農業の食育の可能性を育んでいきたい。また来年3月頃にオンラインでの会員の皆さんとの対話の場などもつくれたらと思った。



NO.18【一般社団法人エディブル・スクールヤード・ジャパン】

東京都中央区（於:Ebible KAYABAEN）

エディブル・スクールヤードはエコロジーな食育プログラムで、米カリフォルニア州のオーナーシェフが公立中学校の校庭で始め、各国に広がっている。エディブル・カヤバエンは茅場町の老舗、平和不動産が所有する東京証券会館の10階屋上に一昨年から開設されている屋上菜園で、エディブル・スクールヤード・ジャパンが受託・運営しており、都心の子供たちを対象に学校での授業の場の提供や様々な食と農の自然学校を開催するほか、地域住民を対象にしたイベントなども行なっている。

今回は、専門家の勅使河原さんから、食と農の自然学校の中で「アートを介した農体験」プログラムの指導を受けた。

実施時期		令和5年10月
依頼団体		一般社団法人エディブル・スクールヤード・ジャパン
専 門 家 (所属・氏名)		勅使河原香苗
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・その他(植栽ワークショップ)

アドバイスの内容・効果等	テーマ	アートを介した農的プログラムの開発
	アドバイスの内容	講師が子どもたちへの農的プログラム開発とアートの果たす役割についてレクチャーし、実際にアートを生かしたプログラムづくりの実践ワークショップで行う。子どもたちが農業や菜園活動に親しみ最大の効果を得られる活用手法も同時に伝える。 ①黒板絵を用いてビジュアル視点から子ども達の環境教育の理解を深める講義と②参加者自身が実際に子どもの目線にたって野菜やハーブ、エディブルフラワーを採集してテーブルの上をアート視点で飾り食育につなげるワークショップの2つのプログラムを実施し、参加者の実践的な学びにつなげた。
	アドバイスの効果	①においては特に絵が不得意な参加者でも黒板絵を用いて子ども達の理解を深めることができるようポイントを絞って指導した。②においては、農的プログラム内で子ども達へどのような声かけをしながら授業を進めていくと良いカリアルな事例と効果を伝え、参加者の理解を深めた。
	残る課題	子ども達の五感が刺激されるような、より自由なアートを介した農的プログラムを開発するには、学校教育の場で先生方と話し合いながら協力を仰ぐ必要がある。よって参加者の次の学びのステップとして、図工や国語などの教科と連携させた緻密な計画書作りを学ぶ必要がある。
	今後の方針	アートを介した農的プログラム開発は、今回の実践例以外にもたくさんのコンテンツがあり、継続して今回のような講義とワークショップをおこない実践者を増やしていく必要がある。



9) 6次産業化

NO.19【平原区自治会むらづくり委員会】奈良県吉野郡下市町（於：大和あゆみ農園）

奈良県下市町平原（へいばら）地区は限界集落ともいえる地域だが、集落内の結束が固く、地域おこしを頑張っており、薬草ハーブの里として、農薬不使用のレモンガラスの生産に取組み、葉の部分は収穫後にハーブティーとして活用しているが、株元には未だ余剰が残されている。これをタイ料理の食材として新たな価値を見出すとともに、効率的な収穫選別を進めつつ、都市部の消費者とのコミュニケーションを促進するためのイベントを考えているが、高齢化も進んでおり、どうする方法があるか、米の専門家として経験豊富な中川専門家のアドバイスをお願いした。

実施時期		令和5年9月
依頼団体		平原区自治会むらづくり委員会
専 門 家 (所属・氏名)		合同会社ノコノコ・中川美陽子
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・その他(現地アドバイス)
アドバイスの 内容・効果等	テーマ	まちおこしレモンガラスの活用展開
	アドバイスの 内容	現状、まちおこしとしてのレモンガラス栽培・加工・販売は地域メンバーの協力により一定の成功を収めていますが、これまでの取り組みがややマンネリ気味で

		あるという課題が浮き彫りとなりました。アドバイザーからの助言として、米粉とのコラボレーションを含む新たな活用展開や、都市部の消費者との繋がりを強化するために、都会の視点からのアプローチが必要であるとの指摘をいただきました。
	アドバイスの効果	現在のレモングラス栽培では、収穫後に葉の部分をハーブティーとして活用していますが、株元には未だ余剰が残されています。これをタイ料理の食材として新たな価値を見出すとともに、効率的な収穫選別を進めつつ、都市部の消費者とのコミュニケーションを促進するためのイベント化が提案されました。アドバイスを元にしたイベントの企画が進行中であり、都市部の消費者との繋がりを深める可能性が高まっています。
	残る課題	地域は高齢化が進み、マンパワーが不足しているため、地域外からの協力者や事業者の参加が求められています。この点については、段階的にアプローチを進め、協力者の獲得に向けて検討を深める必要があります。
	今後の方針	引き続き課題解決に向けてアクションを起こしていく一方で、新たな課題が発生した際には再度アドバイザーからの助言を仰ぎ、地域振興の成功に向けた戦略を練り上げていく予定です。



10) 担い手育成や農地確保

NO.20【仰木自然文化庭園構想 八王寺組】滋賀県大津市（於：上仰木棚田）

棚田のある大津市上仰木地区は1000年以上続く棚田を耕作放棄から守るため、上仰木農業組合、組合長OBが集まり、荒れた田んぼを公園にしたり、集落を巡るハイキングコースの整備などの構想を練り、地域活性化の取り組みとして棚田オーナー制度を活用して、都市住民や学生を対象に農業体験等を実施しており、2020年5月、国の指定棚田地域に選定された。棚田は米の生産の場所であるが、多様な生きものが生息する貴重な場所でもあり、当地区の棚田ではさまざまな絶滅危惧種が生息しており、その保全が求められている。

今回、佐渡市の朱鷺保存等、生物多様性について豊富な経験を有する服部専門家の指導を得て田んぼの生きもの調査を実施、現地の生態系の把握と保全価値の評価を都市住民（棚田オーナー・学生等）と協働で行うことで、棚田保全の重要性や農業に対する理解・共感を増進する。

実施時期	令和5年6月
依頼団体	仰木自然文化庭園構想 八王寺組
専門家 （所属・氏名）	服部謙次
会合の形態	開催方法
	形式
	・現地での実開催
	・その他（観察会）

アドバイスの内容・効果等	テーマ	(1回目) 棚田の現地で、アドバイザーから助言をもらいながら、打ち合わせや安全面の確認、予備調査などを実施した。 (2回目) 仰木自然文化庭園構想八王寺組が管理する上仰木の棚田に生息する生きものの、都会からやってくる棚田オーナーや市民や学生とともに、調べて、棚の保全活動について考える観察会を実施した。
	アドバイスの内容	(1回目) ・会場の設営方法 ・当日の進行の方法 ・現場での安全面・リスク管理 ・棚田に生息する生物について (2回目) ・生きもの調査の方法 ・採れた生きものの解説 ・棚田の農業と生き物の関係に関する考察
	アドバイスの効果	(1回目) 今回が初めての取組であったが、トラブルもなく、スムーズに進行することができた (2回目) ・棚田の生き物に関する知識を、地元農家も棚田オーナーも高めることができた。 ・棚田の保全に対する理解を都市住民と地域の住民の双方から深めてもらった。
	残る課題	当日は好天気に恵まれたが、悪天候となった場合、中止や開催形態の変更などを余儀なくされることも想定する必要がある。今後、継続的に実施する場合は、課題である。
	今後の方針	行事自体は非常に好評で有意義であったが、準備や片付けなどで地元負担も大きかった。今後の実施などについては、組織内・関係者で協議する予定となっている。



12) 地産地消

NO.21【株式会社エマリコくにたち】東京都国立市（於：クラフト!クニタチカ）

国立市を拠点に活動しているエマリコ国立では「背景を知って、おいしい。畑で作業して、おいしい。仲間と一緒に、おいしい。」を合言葉に、消費者が農業者や農業と交流し、援農をするプログラムとして「イートローカル探検隊」を組織している（隊員20名程度）。

有機農業は、農水省が推進しており、消費者の注目も集まっており、今回、地域で市民参加型農業や有機農業に取り組んでいる専門家の小野淳さんを講師に、その基礎知識、現状、有機認定を持つ農業者が少ない都市農業において、時代の変化にどのように対応していくべきか等、有機栽培と都市農業の関係性について学ぶこととした。

実施時期	令和5年8月
依頼団体	株式会社エマリコくにたち
専門家 (所属・氏名)	株式会社農天気・小野淳

会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・講演会等
アドバイスの内容・効果等	テーマ	オーガニックとはなにか？
	アドバイスの内容	今後、援農や体験農園での活動をしていくうえで不可欠な、有機栽培、農業、化学肥料についての知識、また、農水省「みどりの食料システム戦略」が農業に与えていく影響について、ご自身の体験もふまえて、講義いただいた。
	アドバイスの効果	有機農業についての知識が深まり、より客観的に自分たちが援農に行く先の農法について理解できるようになった。
	残る課題	国の制度が難しすぎるので、消費者として店頭で商品を選ぶためには、追加学習が必要。
	今後の方針	援農先の農業者と、栽培方法についてディスカッションしてみる。



NO.22【虹とおひさま】広島県広島市（於：虹とおひさま）

自宅の畑を提供し、地域のママさん仲間やお年寄りに幅広く声をかけ、「菌ちゃん農法」で野菜の栽培を行うと共に、その野菜を利用したランチを提供し、安全安心な添加物や調味料の選び方に興味をもってもらい、食と身体作りの大切さを広めていく活動を行っている。

最近、古民家を購入し、そこを拠点に薬膳などにも取り組んでいることから、今回「菌ちゃん農法」と薬膳の専門家である則久さんを招きアドバイスをもらうこととした。

実施時期		令和5年 10 月
依頼団体		虹とおひさま
専門家 (所属・氏名)		オフィス IKUYO・則久育葉
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・その他（講習会）
アドバイスの内容・効果等	テーマ	(1 回目) 薬膳を学ぶ事で身体の仕組みを知り、毎日の食事が身体を作ること、薬にもなることを理解し、生活の中に取り入れ身体の中から整える学びにする。 (2 回目) 菌ちゃん農法による土作り、野菜づくりを学ぶ。 また、薬膳の知識をもとに、症例から実際に何を食べると身体が改善するのかワークショップをおこなう。
	アドバイスの内容	(1 回目) 身体の仕組み陰陽五行で自然の流れをしり、自然に寄り添って生きることを教えていただきました。日常の生活を例にあげて教えていただき、自分に合ったお茶の調合の仕方などを教えていただきました。 (2 回目)

		畑を見学し、菌ちゃんの畑と身体の仕組みがよく似ていることを学びました。薬膳講座を日頃の生活に生かせるよう、症例をあげて、その対処方法に何が必要かディスカッションをするワークショップをした。テキストをもとに話し合うことで、表の見方などを理解することができました。
	アドバイスの効果	(1 回目) 食生活が主になりますが、身体を冷やしたり、温めたり、潤したりする事を理解することができたので、薬膳という言葉をもっと身近に感じることができました。 (2 回目) 旬の野菜の積極的に取り入れ、身体の不調がある時に、病院に行く前に食事で対処しようと思うようになりました。
	残る課題	(1 回目) まだまだ落とし込みところまでいかないなので、いかに生活の中に取り入れることができるようにするのが課題です。 (2 回目) 旬の野菜を飽きずに取り入れことができるように、レポートリーを増やし、テキストの対応表から料理を組み立てていくこと。
	今後の方針	(1 回目) 教えていただいたことをそのままにしておくのはもったいないので、復習会などを開いて持続させていきます。 (2 回目) 薬膳講座の復習会の時に、季節にあった調理実習をする。



NO.23【NPO 法人 ゆうきハートネット】(岐阜県加茂郡白川町) (於:北黒川公民館)

「ゆうきハートネット」は岐阜県白川町で、移住促進、有機農業促進、技術交流、流域自給を目的とした有機農業普及を行っている NPO 法人。自分たちの農業を活性化するために CSA 的な農業、アグリツーリズムを模索しており、名古屋市宿院のマルシェなどにも参加している。

中部圏を拠点に活動している飯尾専門家には、継続的に都市部との繋がりや連携についてコーチングしてもらっているが、今回は都市部とのつながりの作り方マーケティング、ブランディングの勉強会をお願いした。

実施時期		令和 6 年 2 月
依頼団体		NPO 法人 ゆうきハートネット
専門家 (所属・氏名)		りんねしゃ・飯尾裕光
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・講演会等
アドバイスの 内容・効果等	テーマ	(1 回目) ・イベントの共同開催 (2 回目)

	アドバイスの内容	・これからの里山経済学 (1 回目) ・イベントを通じた都市部の人の巻き込み方 ・広報やイベント内容の訴求について (2 回目) ・地方で生き残っていくための考え方 ・ブランディングとクラフトマンシップ ・ローカルかつコミュニティマーケットの作り方 ・マルシェやイベントの運営方法
	アドバイスの効果	(1 回目) 多くの人を巻き込み、ファン拡大についての考え方や実践力が身についてきた。 (2 回目) 参加者全員が非常に興味深いテーマで、内容を共有することができた。今後むかう指針が言語化された。
	残る課題	(1 回目) ・個性あるコンテンツの作成 ・都市部へのリーチ、地域の巻き込み方 (2 回目) ・実践のためのチームビルディング ・エリア全体の連携とブランディング
	今後の方針	(1 回目) ・引き続き、都市部のマルシェなどとも連携しながらコミュニティを拡大させていく。 (2 回目) ・エリアや農園としての個性を磨いていく。 ・そのために引き続きアドバイスいただく。



14) 農業祭等のイベント

NO.24【びえい農泊 DX 推進協議会】神奈川県鎌倉市（於：鎌倉農泊協議会 琥珀）

びえい農泊 DX 推進協議会は、北海道美瑛町で農泊 DX を推進する協議会。共創プラットフォームで地域資源を磨き上げ、世界から注目される農泊 DX を構築し、サステナブルツーリズム、ガストロノミーツーリズム、ワーケーション、インバウンド対応など、魅力的で持続可能なビジネスモデルを構築していく予定。農泊に最適な形で ICT 技術を実装し、我が国における農泊 DX のフラッグシップモデルを実現させることを目指している。

今回は、協議会の中核企業の I 社、株式会社 Brain Trust from The Sun が運営している農泊の先行事例である鎌倉農泊協議会を訪ねながら、両者で勉強会を行うにあたり、6 次産業化や、地域や生産者への巻き込みや産消提携の取り組みをおこなっている専門家の中川さんを招き、勉強会を行った。

実施時期	令和5年11月
依頼団体	びえい農泊 DX 推進協議会

専 門 家 (所属・氏名)		合同会社ノコノコ・中川美陽子
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・会議
アドバイスの 内容・効果等	テーマ	マルシェのつくり方
	アドバイスの 内容	マルシェ開催の流れ、マルシェ開催に必要なもの、マルシェの工夫、マルシェの意義、会場実施で気をつける点、出展者募集案内など、多岐に渡り具体的なお話を聞かせていただきました。
	アドバイスの 効果	マルシェは、生産者が主体となるべきだと考えていましたが、ソラニワさんのように、中立的な立場で農泊事業主体がマルシェを実施し、地域の関係者と食と農のコミュニティ作りで、実現ができることが分かり、大変参考になりました。
	残る課題	事業採算性が課題となりますが、地域にお金を循環させること、コミュニティ作り、生産者の意欲向上、収益改善に効果があることから、販売計画、プロモーション等を管理しながら、運営をしていくことが求められる点です。
	今後の方針	びえい農泊 DX 推進協議会の中核企業の一つ、BTS が鎌倉と浅草に宿泊施設を持っていて、鎌倉では農泊事業をしています。生産者の山森金雄さんは鎌倉市農協連即売所で毎週野菜を販売しています。そのお野菜を持ってきただき、私たちが料理を作りながら、これから私たち世代が、どのように農業を支えていく必要があるのかをディスカッションしました。その後で、空庭さんのお話を聞いていて、マルシェやイベントでの販売について、考える時間を作りました。浅草は年間 5000 万人を超える観光客が訪れる日本で最も人気な観光地であり、びえい農泊メンバーの宮澤さん、そして私の父、祖父母が代々暮らしてきた場所です。東京生まれの私が、観光事業を通じて、生産者のことを理解する旅を作ることができるのか。 魅力の異なる浅草、鎌倉、美瑛を繋いで、私たちは食と農と観光を LINKED CITY のメンバーと一緒に、繋げていきます。歴史と伝統と文化を大切に人々を繋いでいく活動で、昭和生まれの私は、35 歳以下の平成世代にバトンを渡すことが私のミッションと考えています。来年度、生産者と共に行うマルシェの実現に向けて、関係者と打ち合わせをしていきます。今回、鎌倉野菜を作っている生産者とも打ち合わせをしましたが、生産者と共に、マルシェをしたいという私たちの意見に耳を傾けてくださり、とても喜んでくれました。宿泊をしながら、農家さんの作った野菜で料理を作り、コミュニケーションをする時間を大切にしていきます。そして集大成として、年1回程度のマルシェができたと考えています。



15) その他

NO.25【戸田市農業研究会】埼玉県戸田市（於：戸田市役所）

「戸田市農業研究会」は都市農家が都市農業や都市農地について学習、情報交換している自主的な活動グループ。

今回は、都市農地制度の大きな変わり目を迎えている中、これまでの都市農地制度の歩みや近年の都市農地保全の動き、新制度等について、堀内専門家から講義をもらった。

実施時期		令和6年3月
依頼団体		戸田市農業研究会
専門家 (所属・氏名)		一般財団法人都市農地活用支援センター・堀内大盟
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・講演会等
アドバイスの 内容・効果等	テーマ	「農地の活用」について－制度と税制－
	アドバイスの 内容	都市農地における、区域区分・税制の変遷・生産緑地制度・都市農地の活用方法などを、資料をもとにご講義いただいた。
	アドバイスの 効果	資料がきめ細やかかつ丁寧であり、そこに講師の説明が加わるため、非常にわかりやすかった。また、参加者はそれぞれの農地を持っている方であることから、質疑応答についても講師の講義の内容を質問者の状況に合わせてされているなど、大変有意義な講義であったと感じた。
	残る課題	それぞれが抱えている課題が少しずつ違うため、内容によっては少し理解に差が出るところである。
今後の方針		アンケート等を通じて、参加者が理解がより進むようなセミナー開催し、それを継続することが出来るような工夫を凝らして行きたいと考えている。



農山漁村振興交付金のうち 都市農業機能発揮対策

【https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi_nougyo/attach/pdf/hojo_gaiyou-26.pdf】

詳細はYouTubeで
ご覧いただけます



＜対策のポイント＞

都市住民と共生する農業経営の実現するため、都市部での農業体験等の取組や農地の周辺環境対策、防災機能の強化等の取組を支援し、その際、都市農地の貸借促進に係る取組を優先的に支援します。また、今後の都市農業振興に向けた国の施策の方向性に沿ったモデル的な取組を支援します。

＜事業目標＞

都市農地の貸借の円滑化に関する法律に基づき貸借された農地面積（255ha〔令和6年度まで〕）

＜事業イメージ＞

1. 都市農業機能発揮支援事業

都市農業が有する多様な機能を活用した取組を支援するための都市農業等のアドバイザーの派遣、都市農業を持続的に経営していくための税制度・相続等の講習会の開催、都市住民をはじめとする国民の都市農業に対する理解醸成や農業・農山漁村への関心を喚起するための効果的な情報発信等の取組等、都市農業の機能発揮のための全国に向けた取組を支援します。



都市農業アドバイザーの派遣



税や相続に関する講習会



都市住民への理解醸成や効果的な情報発信

2. 都市農業共生推進等地域支援事業

① 地域支援型

ア 都市住民と共生する農業経営への支援策の検討や都市農業の機能についての理解醸成、市民農園等の附帯施設の整備や都市農地の周辺環境対策等の取組

イ 都市農業者と都市住民が直接ふれあうマルシェ等の開催による交流促進のための取組

ウ 都市農業の機能である防災機能の維持・強化等の取組等を支援します。

② モデル支援型

国の施策の方向性に沿った取組を、複数の地域が連携して一体的に実施し、当該取組をガイドライン化する等により、各地域への波及させる取り組みを支援します。

都市農業共生推進等地域支援

●地域支援型



都市住民と共生する農業経営への支援策の検討



都市住民の農業体験農園



マルシェ等の開催



防災機能の維持・強化
防災訓練や防災兼用井戸の整備

●モデル支援型




地域支援型の取組に合わせ、国の施策の方向に沿った取組を実施し、ガイドラン等により全国に波及させる取組を支援。

都市農地貸借法に基づく農地の貸借による次世代の担い手づくり等の取組に対し、加算により優先。



貸借
都市農業者（担い手）

＜事業の流れ＞

国

→ 定額

民間団体、地域協議会、市区町村、J A、NPO法人等

[お問い合わせ先]
農村振興局都市農村計画課（03-3502-5948）

34

農を活かすと、できることがいっぱい!

アドバイスの内容は 多岐にわたります

1

市民農園の設置、コミュニティ農園の取組み

① **メリット**
NPOや地域団体等による市民農園の設置、近隣農家の関係づくりによるコミュニティの活性化

4

地産地消の取組みやマルシェ・収穫祭等のイベント

① **メリット**
・地域の行事に合わせてマルシェを開催して地産地消化や交流の場
・飲食店が地元産野菜を使う店舗とトークショー開催

8

防災協力農地の導入に向けた取組み

① **メリット**
・農地での防災訓練や防災協力農地創設の導入等

2

農業体験農園・就学農園の開設、CSAの取組み

① **メリット**
・体験農園等の開設・運営方法(研修プログラム・収益計算・入会者の経路等)を市町村と連携してCSAの取組む方法
・CSAの取組む方法

5

園芸施設で高齢者の生きがいづくり

① **メリット**
・農芸指導のディワーズやサービス付有料高齢者住宅で園芸指導やマルチバッドで野菜づくり

9

新しい都市農家・都市農地創設の取組み

① **メリット**
・都市農家・都市農地創設の取組み、都市農地開発費や経費モデルの策定、都市農地の貸付制度の活用等

3

地場における食育・環境教育

① **メリット**
・食育授業を食から育て、収穫して食べる食育授業などのない地場や環境づくり、田んぼや水田でとるに体験

6

層別者別や農家のマッチングで6次産業化

① **メリット**
・ジャム、ハムやソーセージ、豆腐、シロートなど多様な加工品づくりで地産農家の活用促進

10

定地の農地転換や農地空間創出の取組み

① **メリット**
・転換地を定地とし、食育の場、コミュニティ農園を創設、定地の空間化を実現し、近隣住民が利用する農地を創出

7

農産と企業等との連携に向けた取組み

① **メリット**
・農産物、企業等による農地の創設や農産物の活用等

11

農を活かしたエリアマネジメントの取組み

① **メリット**
・農と農地による地域のまちづくり活動
・農産物に隣接する地域、農地のガイドラインづくり

一般財団法人 都市農地活用支援センター

東京都千代田区岩本町3-9-13 岩本町寿共同ビル4階

TEL. 03-5823-4830 / FAX. 03-5823-4831

E-mail : adviser@tosinouti.or.jp

HP URL: <http://www.tosinouti.or.jp/>



「都市と農の共生」

都市農業が有する様々な機能発揮の取組事例をHPにて紹介

<http://www.tosinouti.or.jp/living/caselist.html>

